



# 諏訪小だより



## 富士見市立諏訪小学校

令和7年6月19日 学校だより NO. 3

校長 石井 勝博

### 社会性を育む

5月24日(土)、6月17日(火)の2日間、学校公開大変お世話になりました。大変暑い中、たくさんの保護者の皆様にご参観いただきありがとうございました。

この2日間の保護者の皆様から頂いたご意見等を受け止め、交換授業ではなく担任の授業を入れることや、活動のある授業を取り入れるなど、今後に向けよりよい学校公開になるよう努めて参ります。

6月18日に行われた「すわっこまつり」では、下級生のことを考えながら行動する高学年、特に、縦割りのグループやチームのリーダーである6年生の姿が見られました。こうした学校行事における体験、特に人との関わりを通して子供たちが学ぶ(身に付ける)ものは、将来、社会人として自立するための「生きる力」、その中でも(『社会性』を含む)「豊かな人間性」を育む上でも極めて大切な教育活動であると考えています。

社会的な自立の基礎を培う小学校段階で育まれる『社会性』には、次のようなものが考えられます。

○友達(相手)に迷惑をかけない。

○みんなで協力し合う。

○相手を思いやる(困っている人の気持ちを理解する・気持ちが分かる)。

○相互の長所・短所を認め合える(好ましい人間関係をつくることができる)。

子供たちは、集団活動の場としての学校(学級)での様々な体験を通して、互いに思いやり、認め合うことなどを学んだり、身に付けたりしていくのです。(勿論、これらが具体的な行動としてどう表れるかは、発達段階や個人によっても違います。)

一方、本校の子供たちは「あいさつ、返事、靴そろえ」「もくもく清掃」で、誰に言われなくても、毎日続けることができる強い『意志力』を育てています。

体験活動を通して育まれた『社会性』は、この『意志力』と相まって、たくましく「生きる力」として子供たちの中に根付いていくと考えています。

本校では「認め、励まし、褒める」教育を進めており、子供たちの成長のプロセスを大切にしています。さらに、『社会性』を育む機会は、学校だけでなく、家庭生活の中や地域での活動の中にもあります。子供たちの『社会性』が育まれるプロセスを家庭や地域で支え、見守っていただきたいと思います。

